

## 着地型観光の持続可能性に関する研究～高知県土佐郡土佐町を事例として

伊藤 溪太

指導教員 土屋 哲

### 研究背景

着地型観光は、“地域の資源を地域の主体が企画・提供し、滞在価値を高めることで地域に人とお金を呼び込む”という考え方に基づいており、特に、観光地としての知名度は低いが固有の資源が豊富な地域や、域内に小さなプレイヤーが多い地域で効果を発揮するとされている。しかし、着地型観光の取り組みをどのように持続的なものにしていくかという問いについては、十分に明らかにされていないように思われる。

### 研究目的

本研究では、高知県土佐町を事例として着地型観光が地域活性化に与える影響を分析する。土佐町では土佐町体験博覧会「とさんぽ」をはじめとする着地型観光の取り組みが継続的に実施されており、地域外の人々に町の魅力を伝えると同時に地域住民が自らの地域資源の価値を再認識する機会となっている。この事例は着地型観光による地域活性化の可能性を示すものであり、本研究ではその影響と課題を明らかにすることを目的とする。

### 研究方法

まず、土佐町においてこれまで実施されてきた着地型観光に関する取り組みについて、観光関連資料をもとに整理する。次いで、着地型観光の企画・運営に携わっている関係者を対象にインタビュー調査を実施し、インタビューによって得られた結果と既存資料の内容を総合的に分析し、着地型観光が地域活性化に与える影響およびその課題について考察を行う。

### 分析結果

土佐町が展開する体験型観光プログラム「とさんぽ」への参加事業者にインタビューを行い、参加動機や効果認識を中心に聞き取った結果、事業者の参加は行政や主催者からの呼びかけによるものが多く、動機は比較的受動的であった。一方で、参加の目的は地域活動への協力を重視する立場と、自社商品の認知向上や関係性形成を目的とする立場に分かれていた。

### 考察・結論

イベント後には商品や店舗、生産者の認知向上やファン形成といった中長期的な効果が認識されていた。短期的な売上増加などの経済効果は限定的であったが、地域産品が地域外

で選ばれるようになるなど継続的な関係性の構築につながる可能性が示された。また地域活性化には個別の取り組みではなく、地域全体を面的に捉えた連携が重要であることが指摘された。